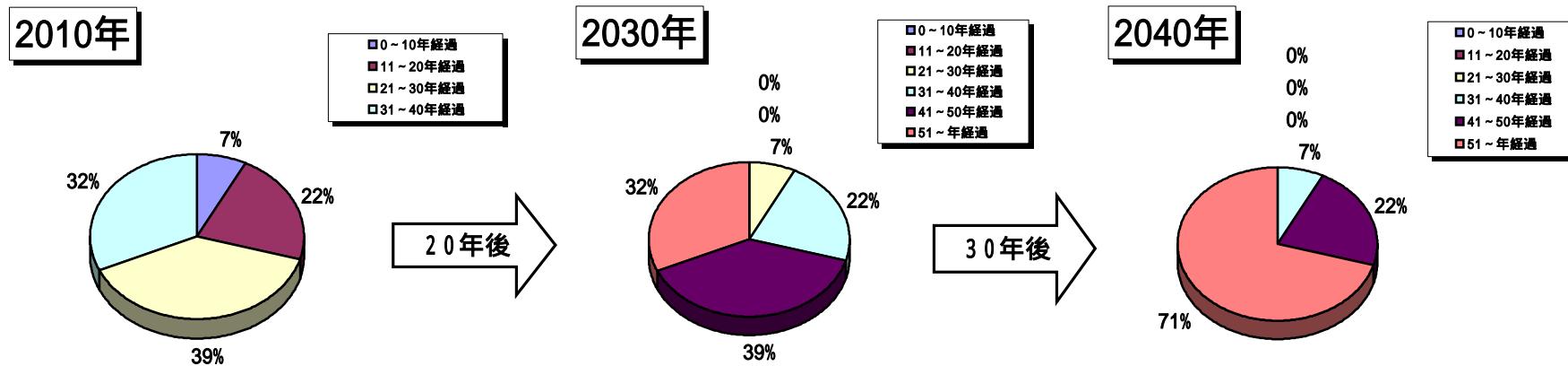


### 1. 中標津町の橋梁の現状

中標津町が管理する橋梁は、現在95橋有り建設後30年以上を経過している道路橋は全体の32%有り、建設後50年を経過する橋は20年後に32%、30年後には71%と急速に高齢化橋梁が増大します。



### 2. 最近の主な橋梁の損傷等の発生状況

このような中、近年全国的には、道路橋において重大事故につながりかねない老朽化による損傷が相次いで発生しており、橋梁の高齢化に伴う維持管理・更新が重要な課題となっています。

#### 【橋梁の老朽化等による重大な損傷事例】

- H19.6 : 国道23号木曽川大橋 (鋼トラス橋の斜材破断)
- H19.8 : 国道7号本荘大橋 (鋼トラス橋の斜材破断)
- H20.6 : 国道9号出雲大橋側道部 (水中部鋼製パイルベント橋脚断面欠損)
- H20.10 : 千葉県君津市、君津新橋 (アーチ材の吊り材の一部に破断発見)
- H22.6 : 国道27号湯岡橋 (ゲルバーハンジ部補強吊り部材脱落)

### 3. 橋梁アセットマネジメント(長寿命化対策の必要性)

【2 / 4】

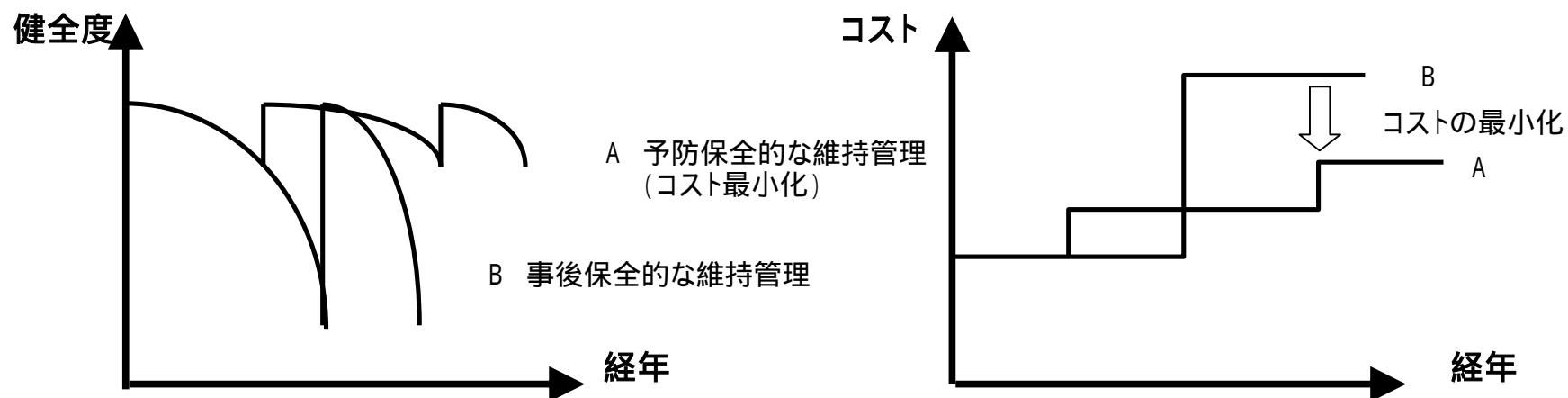
平成21年3月31日に閣議決定された「社会資本整備重点計画」においても、「ストック型社会への転換に向けた社会資本整備」を行うこととしており、「これからは、施設の状態を定期的に点検・診断し、異常が認められる際には、致命的な欠陥が発現する前に速やかに対策を講じ、ライフサイクルコストの縮減を図る”予防保全”の考え方方に立った戦略的な維持管理・更新を実施していく必要がある。」とされています。

#### 「道路構造物の今後の管理・更新のあり方 提言」

(平成15年4月 道路構造物の今後の管理・更新のあり方に関する検討委員会)

「道路構造物の劣化は、経過年数とともに加速度的に進展し、早期に予防的な対策を行った方が、維持管理を先送りしてそのまま放置するよりもトータルコストが安くなる」

{橋梁アセットマネジメントによるライフサイクルコスト最小化イメージ}



橋梁長寿命化修繕計画を策定するに当たり、最も重要な基礎データの元となる橋梁の点検については、平成19年度に国土交通省国土技術政策総合研究所で作成した基礎データ収集要領(案)(以下「要領(案)」といふ)によることとし、著しい劣化の有無など道路橋の健全度に着目した調査時点の状況についての概略をできるだけ簡易に把握することとしてあります。

要領(案)は、一般的な構造形式の道路橋において、主要な部材のみに着目し、かつ損傷発生頻度が高い箇所や同じ部材の中でも劣化が先行的に進行する箇所のみに着目するなどにより省力化を図っているため、トラス・アーチ等の特殊な形式の橋梁については、それぞれの橋梁形式に応じた調査方法とします。

#### 【調査方法の留意点】

- 目視によることを基本とする。
- 桁端部や支承部及びその近傍の部材は、直近の橋台や橋脚からできるだけ近接して調査する。
- 近接が著しく困難な場合は、遠望目視と周辺の部材等の状況から推定する。

なお、調査時において特異な変状や供用の安全性や第3者被害が懸念されるような異常を確認した場合には、別途、点検や詳細調査を実施することとします。

#### H19 国総研点検要領

鋼 損 部 傷 材 の 損 傷	損傷	対象	評価
	腐食	桁端部	5段階
	亀裂	桁端部	有無
	ボルトの脱落		有無
	破断		有無

コ ン クリ ート 部 材 の 損 傷	ひび割れ・漏水 ・遊離石灰		5段階
	鉄筋露出		有無
	抜け落ち		有無
	床版ひび割れ・ 漏水・遊離石灰	端部2パネル	5段階
	PC定着部の異常		有無

そ の 他 の 損 傷	路面凹凸	伸縮継手部	有無
	支承機能障害		有無

共 通 の 損 傷			
	沈下・移動・傾斜 洗堀	下部工	有無

橋梁点検については、平成22年度と平成23年度において中標津町の管理する全95橋を点検する計画であり、平成23年度までに95橋の点検を完了しました。  
今後、平成24年度には、橋梁長寿命化修繕計画の策定を予定しております。(95橋)

管理橋梁 (総数)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実施内容	橋梁点検	橋梁点検	長寿命化修繕計画策定
95橋	50橋	45橋	95橋

中標津町の橋梁(点検)に関する問い合わせ先  
中標津町建設水道部管理課  
TEL 0153-73-3111(内線347・348)  
FAX 0153-73-5333

